

研究の概要

自分の思いをすすんで表現できる児童の育成

～外国語活動・外国語を通して～

1 研究主題について

グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、今後の生涯にわたる様々な場面で必要とされ、その能力の向上が大きな課題となっている。

本市でも平成32年度の完全実施を待たず、新学習指導要領に拠る指導を推進している中、外国語の指導力向上が望まれる。

昨年度、一昨年度、本校の研究では、特別活動の指導を通して、人間関係を深め主体的に行動できる児童の育成に取り組んだ。2年間の取組みにより特別活動、特に学級会において、自分の思いを伝え、相手の思いを受け止めながら合意形成を図る中で人間関係を深めようとする姿が全校児童の95%以上に見られるようになった。

この関わりに対する主体性を、外国語を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質能力に結びつけ、様々な場面で進んで表現する姿に繋げていきたい。

本研究における「自分の思いをすすんで表現できる」を本校では、次のようにとらえる。

ユニットごとのターゲットセンテンスを活用して自分から表現する姿

2 研究仮説について

外国語を通じた自分の思いをすすんで表現できる児童の育成の具現化に向けては、「指導する教員の外国語指導に対する苦手意識の払拭」と「相手に伝える必然性のある課題設定」の二つが課題として挙げられる。一つ目の課題に関しては、本市では、一昨年度より各担任の外国語指導のガイドとなるよう市英語教育推進委員会によりレッスンプランが作成されている。二つ目の課題に関しては、市授業改善研修外国語部会により「児童が主体的に学べる授業づくり～必然性のある題材の工夫を通して～」を主題とした先行研究が為されている。以上を勘案して研究を進めていく上で、次のように仮説を設定する。

研究仮説

本市レッスンプランを基に、適正に各学年が、外国語活動・外国語を実施し、必然性ある題材設定を加味しながら授業を充実させれば、自分の思いをすすんで表現できる児童を育成することができるであろう。